



ももたろうくん

ももたろう通信



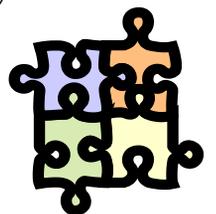
発行日：2020年7月5日
 発行：社会福祉法人つどいの家 グループホーム
 発行責任者：飯田克也（グループホーム管理者）
 住所：〒984-0823
 仙台市若林区遠見塚2-16-15（ピポット若林）
 連絡先：022-282-4671

※ももたろう通信の由来：仲間と助け合い、共に作る広報誌

私達は仲間と協力して
生活しています

見えざる敵新型コロナウイルスが猛威を振るっています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国各地でイベントが中止となっています。3密（「密集」「密接」「密閉」）を避けなければなりませんので、イベントの中止は致し方ありません。入居者のAさんは毎年「とっておきの音楽祭(6月)」、「定禅寺ジャズフェスティバル(9月)」をととても楽しみにしています。スタッフはAさんの精神的な落ち込みを心配し、イベントの中止をどのように伝えたらよいか迷いました。しかし、先延ばしにしておくわけにはいきません。Aさんにイベントの中止を伝えると「そうだね～がっかり...Tシャツ買えないね...よし!」、わたしにはAさん「よし」のひと言は、来年こそという期待を込めたものあるいはコロナウイルスに負けないという思いのように聞こえ、Aさんの強さを感じました。自粛期間中は外出が制限されているため、室内だけで過ごすことはストレスが溜まります。本号では入居者の方のコロナ禍での大変さ、室内での過ごし方を紹介させていただきます。入居者の方のなかにはスタッフとともにマスク作りにチャレンジする方もいました。3月初め「心が重くなります。それが私のなやみです」とっていた入居者のBさんからは「ショックでおちこみもありました。ちなみに！わたしは〇日と〇日移動支援（ヘルパー外出）です」とメッセージが届きました。6月19日、無観客ではありますがプロ野球が開幕しました。入居者の方とスタッフの会話には「昨日野球みた?」「楽天勝ったよ」等、日々の会話のなかで話題となるようになりました。少しずつ日常が戻りつつありますが、まだまだ感染拡大防止のため気を緩めることはできません。

グループホームで新型コロナウイルスの感染者が発生した場合の対応については「グループホームと実施可能な医療との連携体制、人員体制、必要な物品の確保の見込み、グループホームの構造を踏まえた生活空間等の区分け（いわゆるゾーニング）の方法等について検討しておくこと」と示されています。小規模な住居であるグループホームにおいてゾーニングは難しく、グループホームだけで対応できる問題ではありません。PCR検査の方法、人員の確保等、自治体と連携し対応に向けた事前の取り決めが重要となります。



（グループホーム管理者 飯田克也）

グループホーム紹介～オキーノ編～

オキーノでの日常（Tさんの場合）～とても笑顔が魅力的なTさん～

Tさんはほとんど言葉を発することはありません。
しかし、満面の笑みで「楽しい」「嬉しい」「美味しい」などの気持ちを表現します。
今回はこれらの三つの気持ちを笑顔で現すTさんのオキーノでの様子を紹介します！

😊「楽しい！」

渋い表情でいることが多いTさん。

一見おとなしい方に見えますが、おでこタッチやシャドーボクシングなどのコミュニケーションに笑顔になることが多いです。特に朝、満面の笑みでリビングにきて入居者のMさんに自分からMさんのおでこにタッチし、息が漏れるほど笑っています。

そしてMさんからのお返しのタッチに更に笑う。

そのようなやりとりを繰り返しています。

（時にはやり過ぎてMさんから嫌がられることもあります…）



😊「嬉しい！」

自分から気持ちを表すことが難しいTさん。

世話人や他の入居者がいる前では好きな飲み物やお菓子になかなか手をつけない場面が見られます。

そんな時にひと声、どうぞと世話人が声をかけると、自分の気持ちをわかってくれた「嬉しい！」の笑顔になります。

😊「美味しい！」

食べるのが好きなTさん。

食事中は満面の笑みで、食後も満面の笑みが続きます。

他の入居者の方が食べている姿を見ても笑顔になります。

「サラメシ」(サラリーマンの昼食をテーマにした番組)などテレビのグルメ番組を見てとても笑顔になります。



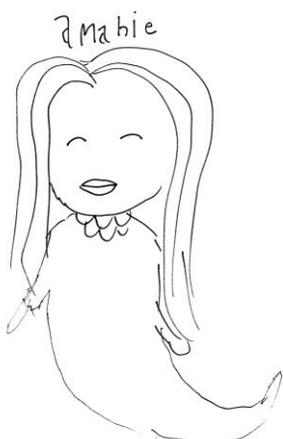
以上、満面の笑みが素敵なTさんでした!(^^)! （記：宮本充）

コロナ禍での大変さ、室内での過ごし方①



(ひかりはうす)

「新型コロナウイルス」—この単語を聞かない日はありません。今でこそ収束の兆しが見えてきましたが、感染拡大防止の観点から様々な自粛を余儀なくされています。入居者の皆さんも例外ではありません。AさんとKさんは「移動支援に行けなくて悔しい」、「室内で何をしたら良いのだろう」と悔しい気持ちで涙ながらに打ち明ける様子が見られました。何度もお話を聞き、収束を願って皆で戦っていこうと伝えました。



Kさん作 アマビエ

室内での自粛活動が続く中、ひかりはうすではちぎり絵やアイロンビーズなどの創作に力を入れました。Kさんは疫病退散の妖怪、アマビエを題材とした置物を作り「アマビエ様！コロナを沈めて！」とお話していました。また、Mさんには「ネコビエマン」のちぎり絵を作っていただきました(下絵はKさんが書いてくれました！)。創作だけではなく体も動かしたい！と毎朝ラジオ体操をすることもありました。私自身も良い運動になったことは言うまでもありません。

4月末以降仙台での感染者はほとんど確認されていませんが、全国では緊急事態宣言が解除された現在も感染者が増え続けています。集団感染が発生した施設もありました。第2波を阻止するためにも常に感染のリスクを考えながら行動する必要があるのではないのでしょうか。感染者0の日が来ることを願い、心から戸外での活動を楽しむことができる日を入居者の皆さんと共に待ちたいと思います。

(記：伊達直美)

(さくらはうす)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、移動支援（ヘルパー外出）の外出不可能な状況が続くAさん。いつもならヘルパーさんと歩いてゲームセンターへ行き、カードゲームをするのが楽しみでした。ですが今は我慢のとき。

自粛が解除になりゲームセンターに行ける日を期待しつつ今日もカードをチェックしています。

(記：佐々木忠)



コロナ禍での大変さ、室内での過ごし方②



(ひこうき雲)

休日になると買い物や外食などを楽しみにしている入居者のみなさん。自粛期間が始まって間もない頃は外出できない状況を納得することが難しく、「どうしてお出かけできないの?」という言葉が何度も聞かれました。そんな中でできることは何かを考えて休日を過ごしました。自粛期間中のひこうき雲での室内での過ごし方を紹介します。まずは訪問美容室です。美容師さんにひこうき雲まで来ていただきました。入居者のお二人ははじめましての美容師さんのため最初は緊張気味の様子でしたが、美容師さんに優しく声かけしてもらい、カットが終わる頃には満足そうな表情に。

ある日は入居者が店員となり、お弁当屋さんを開店。店員役の入居者はポップを作り、エプロン三角巾を付けて開店準備を行いました。お客さんの入居者は自分のお財布を手にし、それぞれが食べたいお弁当を購入しました。「たまにはこういうのも面白いね」と店員をした感想を話しながら美味しく食べました。その他にも折り紙で季節の花を折って飾りつけしたり、お昼ご飯をみんなで作ったりと家にいる時間が長いからこそできることを楽しみながら過ごしています。

(記：坂本裕美)



【編集後記】



今回は外出自粛期間中の各ホームの過ごしをお伝えしました。そんななかでも季節は夏にだんだんと近づいてきました。気象庁の3か月予報では今年の夏も例年より暑くなる予想がでています。今年はコロナ対策としてマスクをすることが多い夏になりそうですので、いつもとは違う対策が必要になりそうです。熱中症にならないために、適宜マスクを外して休憩することも忘れずに元気に夏を過ごしましょう。

(記：佐藤靖志)